



2012年 (平成24年) 11月5日 月曜日

日曜 雑誌 雑誌

鉄のふしぎ? 博物館

■ 3

子どもの頃、U字の磁石を持って砂場で遊びました。黒いつぶつぶがひっつきまわります。たくさん集めて紙の箱に入れ、後ろから磁石を動かすとハリねずみが動き出します。このつぶつぶが何か? いても不思議でした。毎朝のようにNHKの『おはよう日本』を見ます。その度毎に、写し出される江ノ島を望む画像に「あれ?あれ?」違和感を持ちます。姫路で育った私には、松は青く浜は白いものだったので。砂浜の色に驚きまし

鎌倉の砂鉄

画像はカラーと交換しています。

衣川製鎖工業・衣川良介社長

た。鎌倉を案内してくれ、友人は逆に「姫路へ行きました。駅から下り坂を歩くと、浜が白いのは驚きました」と語っていました。真夏の海水浴場の浜辺は真っ白に見えます。2004年3月、鎌倉を訪れました。海岸沿いの道路から見るだけでそれと判る砂鉄の黒い浜がありました。クラシックな江ノ島電鉄の車両に乗り込



① 稲村ヶ崎全景
② 極楽寺川河口の真っ黒な砂

来たこと。子どもに、天然磁石のこと、1万円札が磁石にひっつくことや、磁石にひっつく石ころがあることなど、磁石の話をして別れました。この海岸に流れ込む小川の橋には極楽寺橋の名前が刻んでありました。地図を見ると、この川は極楽寺川、極楽寺の近くから流れ出しています。持って帰った黒い砂を調べてみると全部が砂鉄でした。本によると、昔この海岸を表した地図には『砂鉄』採取地との表記があったそうです。名刀正宗もこの地の砂鉄を使って刀を打ったのだろうか? 想像が膨らみます。『鉄のふしぎ博物館』では、北は北海道(噴火湾)から南は鹿児島県(指宿海岸)(種子島)まで、全国20地点以上の砂鉄を展示しています。もちろん、現在も島根県で『たたら製鉄』を行っている、日刀保(にっとうほ)で使用している砂鉄、過去有名だった『千種』の砂鉄も。色は黒色・こま塩・赤みを帯びた砂鉄、粒も大小。一口に砂鉄と言っても同じものとは思えないほど、バラエティーに富んでいます。番外は、目の細かなニュージールランドの砂鉄、昔製鉄所で炉壁の修理に使っていたものとお聞きしました。

■ 参考図書

『砂鉄とじしゃくのなぞ』板倉 聖宜著(福音館書店 1980年)

私の手持ちの本は上記ですが、現在は仮説社から、同名の本が発刊され販売されています。子供向けの本ですが、大人も楽しめます。砂鉄や磁石に興味のある方は一読を!

日刀保(にっとうほ)『日本美術刀剣保存協会が経営する、刀匠さん達に供給する和鋼を伝統的手法『たたら』で製造しています。』